

第3回CODHセミナー

人文学でのDOI活用 ～研究データや所蔵品など研究資源へのDOI付与～

人文学を検証可能に —DOIへの取り組み・国文研

日時 2017年5月30日（火） 13:30-14:00

会場 国立情報学研究所 1208／1210会議室

国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター

山本和明



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

発表概要

国文学研究資料館は、この春、全冊画像のある古典籍の検索のために、「新日本古典籍総合データベース」を試験公開した。

<http://kotenseki.nijl.ac.jp/>

ここでは1点ごとの典籍にDOIを付与するが、研究者がこのDOIを活用することの有用性について考えてみたい。

新日本古典籍総合データベース 紹 介

<http://kotenseki.nijl.ac.jp/>

新日本古典籍総合データベース 現在試験公開中

DOI
表示

書誌
タグ
全文
事典

くずし字検索
一部典籍に
実験公開

ビューワ
IIIF対応

クリエイティブコモンズ表示

http://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200021712

新日本古典籍総合データベース (試験公開)

万葉料理秘箱/前編

書誌ID	200021712
DOI	10.20730/200021712
種別	国文学
記号番号	1. 万葉料理秘箱/前編 (まんぼうりょうりひみつぼこ/ぜんぺん) 内・目・外 2. 萬葉料理秘箱/前編 (まんぼうりょうりひみつぼこ/ぜんぺん) 表 3. 萬葉料理秘箱/前編 (まんぼうりょうりひみつぼこ/ぜんぺん) 裏 4. 萬葉料理秘箱/前編 (まんぼうりょうりひみつぼこ/ぜんぺん) 表 5. 萬葉料理秘箱/前編 (まんぼうりょうりひみつぼこ/ぜんぺん) 裏
著者名	1. 萬葉料理 著
巻数	巻之五
刊行	刊
出版事項	寛政7
形態	80丁, 22.1×13.5cm, 半
冊数	1冊
書誌注記	(原) 天明5年(1825)の複製 (底) (同記)「影写」
コレクション	国文学研究資料館 古典
新着情報	
著作ID	000059165
統一書名	万葉料理秘箱
巻数	五巻五冊
別書名	1. 万葉料理秘箱前編 2. 五子百抄 (たまごひ)
著者	萬葉料
分類	料理
製作機関	国文学研究資料館
『国文学研究資料館』所収	1

【目次】

- 萬(1)
- 萬(2)

もっと見る

URL <http://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200021712>

日本古典籍総合データベースへ

人文系オープンデータダウンロード

CNIB Booksで書名を検索 (外部サイト)

新日本古典籍総合データベース (試験公開)

万葉料理秘箱/前編 (まんぼうりょうりひみつぼこ/ぜんぺん)

タグ表示

くずし字検索

万葉料理秘箱/前編

レイアウト変更 全画面表示

このコマに付けられたタグ

万(1) 万(2) 万(3)

もっと見る

【国文学研究資料館】 書誌情報

1冊

1. 萬葉料理 著

ライセンス

CC BY-NC-SA

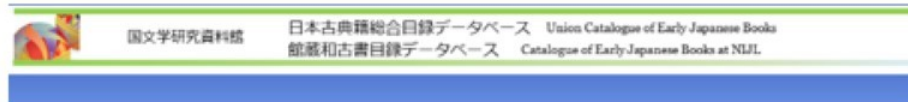
URL <http://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200021712/viewer/1>

Manifest URL <http://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200021712/manifest>

◇国文研の古典籍資料に存するコード類◇（当館独自の体系による）

「日本古典籍総合目録データベース」では、資料の種別、データの種別により異なるコード類が維持管理されている。

- ①「もの」として受け入れ順に付与される【図書番号（登録番号）】
- ②和漢古書の場合、分類体系に則り付与される【請求記号】
- ③日本古典籍総合目録データベースに登録された時点で発生する【書誌ID】
- ④レコードごとに【パーマリンク】
- ⑤画像公開時に書誌ともども【DOI】



【書誌詳細】

戻る

検索画面

該当件数: 1件 (1-1件目)

統一書名, 国書レコード番号, 南西内蔵番号, 作品署名, 成立年, 書誌件数, WID
万葉緯(和漢)密蔵, K, 1, 和漢, 藤土堂, 天明五刊, 10, 59165

書誌URL: http://dbrec.nijl.ac.jp/KTG_B_200021712

書誌ID	200021712
記載書名	万葉緯(和漢)密蔵/前篇(まんぼうりょうりひみつばこ/ぜんべん), 内・外
記載著者名	藤土堂 著
巻数	巻之五
刊行の別	刊
出版事項	漢書堂/蔵
形態	80丁, 2
書誌注記	(版) 天明 記) 「拾号
所蔵者	国文研古典
和古書請求記号	49-10
画像データ	全巻 ※郵送
請求票出力	請求票

レコードごとにパーマリンク（永続的リンクURL）を設定
書誌ID参照

◇ 書誌IDとは

書誌IDは9桁の半角数字からなる。

すべての書誌データに共通するが、資料の種別により、先頭の数字が当館蔵和漢古書では「2」、マイクロ・デジタル資料では「1」となり、当館には実体のない古典籍総合目録書誌データ（原資料ではなく公刊された所蔵目録類からデータ採録）については先頭が「0」となる。

書誌データごとに付与されるが、1点の資料であっても複数の作品が含まれるときには複数件数のデータを作成するため、その場合1点の資料に対して複数の書誌IDが付与される。

◇国文研の古典籍資料に存するコード類◇（当館独自の体系による）

「日本古典籍総合目録データベース」では、資料の種別、データの種別により異なるコード類が維持管理されている。

- ①「**書誌ID**」受け入れ順に付与される【図書番号（登録番号）】
- ②和漢古書の場合、分類体系に則り付与される【請求記号】
- ③日本古典籍総合目録データベースに登録された時点で発生する【書誌ID】
- ⇒ **パーマリンク：書誌のみ**
- ⇒ **DOI：書誌＋画像＋テキスト…【パーマリンク】**
- ⑤画像公開時に書誌ともども【DOI】

画像のあるものにDOI（研究データなどの研究資源という位置付け）

画像単位ではなく作品単位
⇒ **引用の煩わしさの回避**

レコードごとにパーマリンク（永続的リンクURL）を設定
書誌ID参照

書誌IDとは
書誌IDは9桁の半角数字からなる。
すべての書誌データに共通するが、資料の種別により、先頭の数字が当館蔵和漢古書では「1」となり、マイクロ・デジタル資料では「1」となり、当館には実体のない古典籍総合目録書（原資料ではなく公刊された所蔵目録類からデータ採録）については先頭が「0」となる。

書誌データごとに付与されるが、1点の資料であっても複数の作品が含まれるときには複数件数のデータを作成するため、その場合1点の資料に対して複数の書誌IDが付与される。

【参考】国会図書館デジタルコレクション

国立国会図書館デジタルコレクション - 嗚呼奇々羅 : 2巻 - Mozilla Firefox

dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9892641

検索結果に戻る

書誌情報

詳細コード表示にする

系統分類番号

info:ndljp/pid/9892641

タイトル

嗚呼奇々羅 : 2巻

著者

【山東孝俊】 [作] [他]

出版者

【森屋重三郎】

出版年月日

【寛政11(1799)】

請求記号

207-201

書誌ID(HDL-OPACへのリンク)

000003280663

DOI

10.11501/9892641

公開範囲

インターネット公開(詳細設定あり)

サムネイル一覧

先頭 前 次 最終

コマ番号 1 / 13

URL 印刷する フルスクリーン(画面の拡大)

17% 概観図オン JPEG表示

国立国会図書館 嗚呼奇々羅 : 2巻 207-201

ガラス使用

DOI付与
書誌IDとは異なる

何でも聞いてください

17:14 2017/05/28

日本古典籍コードからDOIへ 検討の過程

【研究テーマ】 日本古典籍コードの国際標準化

International Standardization of Codes for Pre-modern Japanese Texts

研究期間：平成26(2014)年4月～平成29(2017)年3月終了

研究代表者：山本和明

プロジェクトを推進するにあたり、重視すべきは、いかに日本古典籍の画像データを活用してもらうか、またその活用実績が可視化されることにより、さらなる研究動向を生み出すかという点にある。

今回、本研究では具体的に、**簡易でわかりやすい典籍についてのコード、また画像コードを提供することが利用者の利便に直結するものである**と考えた。かつ、さらに関連する事柄の画像を、**そのコードを用いて検索してゆくことができる、活用の可能性は大きく広がってゆく**と構想した。

現在用いられている "文庫コードー請求記号" はユニークに特定することが可能ではあるが、**上述のような機能を果たすために、今後も有効であるのか。どのようなコードが、活用の可能性を最大限に引き出せるのか。また、国際標準として通用するのか。**

「日本古典籍コードの国際標準化」 成果報告書（2014年度）

共同研究「日本古典籍コードの国際標準化」 成果報告書（2014年度） 山本和明編

【目次】

はじめに－検証可能な学問に向けて－

.....山本和明(1)

研究会設置の背景と目的

.....金田房子(3)

平成26（2014）年度活動記録と研究会の概要

.....金田房子(5)

韓国国立中央図書館（National Library of Korea）、韓国国立デジタル図書館（dibrary）への訪問調査について

.....中村美里(13)

国文学研究資料館古典籍資料のコードについて

.....増井ゆう子(15)

日本の主な書籍コードについて

.....井黒佳穂子(17)

Digital Object Identifier（DOI）について

.....片岡耕平(22)

[資料] 全国古典籍等画像公開データベース一覧

..... (25)

共同研究

「日本古典籍コードの国際標準化」
成果報告書（2014年度）

山本和明 編

2015年7月

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館

検討の結果 ⇒ DOIの採択を提言（研究会として）₁₀

Permalink : <http://id.nii.ac.jp/1283/00003157/>

はじめに—検証可能な学問に向けて—

山本和明

大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」では、30万点の日本古典籍について、その書誌データとともに全冊の画像を撮影し、web上で公開する。これまで所蔵機関に出向かなければ確認できなかった事柄が、研究者・一般を問わず、世界中どこからでも確認できることになる。研究資料情報の入手難による研究推進の障壁は解消され、資料閲覧を伴う研究分野では飛躍的な深化が可能となる。また、これまでは他の研究分野の書冊として、閲覧手続きの煩多を厭い、閲覧対象にしなかった書物群のなかに、自身の研究対象に関わる記述を発見したり、様々な研究の可能性が埋もれていることを見いだすに違いない。いわば「知の宝庫」が、人々の前に出現するのである。人文科学の研究者ばかりではなく、自然科学の研究者も、この鉱脈を使わないのは、なんとも勿体ない話であろう。

こうした取り組み、すなわち30万点に及ぶ古典籍資料のデジタル公開は、資料保管、データ保存だけを主目的として行うものではない。それでは一部の研究者に資するだけであるし、大規模学術フロンティア促進事業に言う「フロンティア」とも言えまい。むしろ古典籍を、現代に活かす取り組みを惹起させること、研究者自身がそのことを広く人々に周知していく取り組みにこそ重要な意味をもっている。そのためには重視すべきは、いかに日本古典籍の画像データを活用してもらうか、またその活用実績が可視化されることにより、さらなる研究動向を生み出すかという点にある。

そのためには我々は何を必要とするのだろうか。

30万点もの古典籍の山を前にして、宝の持ち腐れとはならず、研究者が、自身が求める資料に迅速にたどり着けることが、おそらく何より重要なのではあるまいか。また他の研究者が発表した論文などで引用された古典籍なども容易に確認できることも必要なのではないか。特に、日本語の入力に不慣れな人であっても、論文中に引用された古典籍の画像を入手出来るようにすることが国際的な研究を進めるには不可欠な要素であろう。

そうした事を考えていくなかで、古典籍に難解な漢字などを用いない一種のコードを付すことが必要だとの考えに至った。具体的には、簡易でわかりやすい文字数による古典籍についてのコード、また画像コードを提供することが利用者の利便に直結するものであると考えた。かつ、さらに関連する事

柄の画像を、そのコードを用いて検索してゆくことが将来できれば、活用の可能性は大きく広がってゆく構想した。利用者は居ながらにして、論文等に用いられている資料の確認ができるとともに、関連する書物を次々に視野に納めていけるのである。画像コードを示すことで直接資料にアクセスすることが可能となれば、画像の取り違えといった初歩的なミスは起こりえないし、そうしたミスも直ぐに発見されるはずである。

こうした考えのもと、どのようにコードを考えれば良いかを考える組織として、古典籍共同研究事業センターのメンバーを中心に発足した研究会であり、その当初の発想はHP上に公開されている研究申請時の文章に書いておいた。その背景を分かりやすく記載し、実際の研究会で議論された事柄については、本報告書に別稿があり、詳細はそちらに譲ることにしたい。ただ、こうした構想のもとで発足した研究会は、ちょうど時宜を得たものであったようだ。

* <http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/research.html#section01>

現在、様々なコードをめぐる議論や研究が活況を呈している状況にある。そうした研究の第一線の研究者の方をお迎えし、お話を伺う機会を得たことで、本研究会としても単年度のうちに一定の方向性は確認できたと思う。コードをめぐる多くの議論も、一定の方向へと集約される時期にあたっていたことも幸いしていたのではないと思う。そうでなければ、多くの課題が残されていただろう。これは、発足当初には思いもしないことであった。

もちろんまだまだ課題はある。今回の報告書にて提案したコードを、より研究者目線に即し、古典籍に即した具体的なものにするため、議論していくことは今後も必要となる。さらにはこうした研究会での提案というレベルにとどまらず、研究者コミュニティにも広く周知する努力は今後継続していかねばならない大切な取り組みである。論文や学会発表時の資料に提示してもらい、実用的なものにする取り組みは重要であり、率先してすすめていかねばならない。研究者が用いなければ、何事も始まらないのである。そうしたことが国際標準として通用させる一歩であり、大型プロジェクトで推進していく国際共同研究にも資するものとなる。

本研究会は、国文学研究機関の同文庫系図書館、国際日本文化研究

古典籍共同研究事業センターのメンバーで構成

ちょうど様々なコードをめぐる議論や研究が活況を呈していた⇒時宜を得た研究となった

論文に引用する古典籍にDOIを明示しましょう——検証可能な学問に向けて——

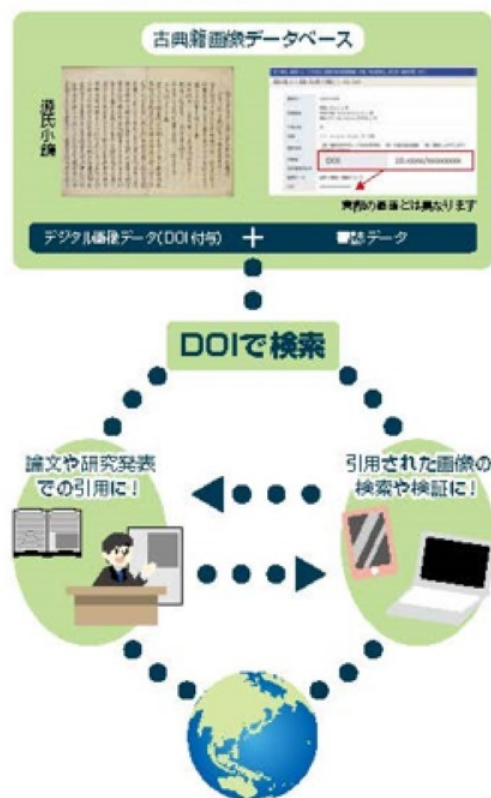
Permalink : <http://id.nii.ac.jp/1283/00003167/>

発行年2016-03-25

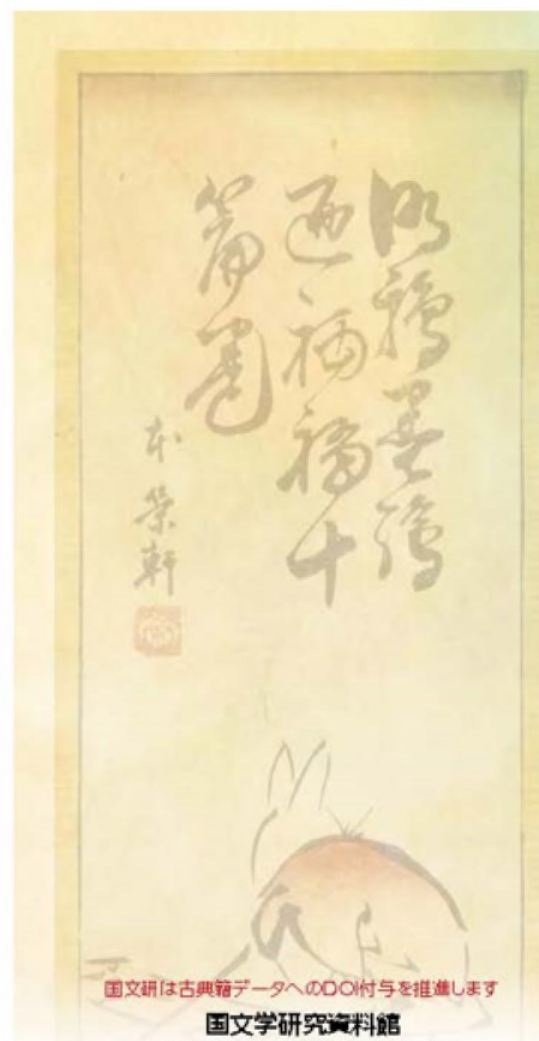
国文研 大型プロジェクトのデータベースにもDOI

今後、国文研は30万点を目標とした古典籍画像データベースを構築していきます。2017年4月より、そのコンテンツにDOIを付与する予定です。このDOIを論文に明記すれば、論文に用いた古典籍をダイレクトに確認できるのです。

国文学研究資料館 古典籍画像 30万点(公開予定)



どこでも、いつでも、誰でもアクセスできます!



国文研は古典籍データへのDOI付与を推進します

国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市経田10-3

E-mail : cjinfo@nijl.ac.jp

URL : <http://www.nijl.ac.jp/pages/cjproject/>



検証可能な学問に向けて

論文に引用する古典籍に
DOIを明示しましょう



日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画

国文学研究資料館

リーフレットの作成 分かりやすくするにはどうしたらいいか 2015年度の活動

DOI (ディー・オー・アイ) って何

Digital Object Identifier の略。

恒久的にデジタル情報を特定できる、国際的な識別子、それがDOIです。対象は、書籍や論文にとどまらず、研究データ、さらに映画やテレビ番組などの情報資産にも、広がり続けています。

インターネット上にあるデジタルコンテンツの所在情報は、一般的にURL (http://...) によって示されています。しかしページやコンテンツの場所などが変わるたびにURLも変更になり、わずかな年間で、対象のサイトに行き着けないということがしばしば。

そこで、デジタルコンテンツへの永続的なアクセスを実現するため考案されたのが、DOIです。

日本では、大学図書館や国立情報学研究所、国立国会図書館が古典籍のデジタル画像へのDOI付与に先進的に取り組んでいます。国立国会図書館では、博士論文(14万件)等への付与に加えて、2015年2月から、約9万件的の古典籍画像にもDOIが付与されました。DOIは、いま研究者が知っておくべき識別子なのです。

古典籍もインターネットの時代に注目されるDOI

(参考) DOIハンドブック

http://www.doi.org/doi_handbook/translations/japanese/hb.html



DOI利用のメリット



リンク切れなし

恒久的に、確実に、画像に到達できます。また、DOIはURLに変換が可能です。



画像の確認が簡単

DOIを入力するだけで画像にたどりつけるので、OPAC (蔵書検索システム) を利用して、所蔵機関の請求記号を調べるなどの手間が省けます。また、すぐに画像で確認できるので、論文内容の検証が容易になります。

たとえば、発表の途中でも資料に示されたDOIをタブレットやPCで検索すれば、参加者はその場ですぐに検証が可能となります。



書誌情報も同時に確認可能

国文研の場合、DOIは今後のシステムで書誌情報とともに示される予定ですので、DOIを入力することで、画像を含む書物全体の情報を得ることができます。



タイトルだけでは区別しにくい
多くの版種がある場合も便利

たとえばDOIをつけることで、国文研に
2点ある「優曇華物語」を区別することができます

国文学研究資料館蔵「優曇華物語」

DOI:10.11111/00000000



(文化元年 鶴堂書右衛門刊)

DOI:10.11111/△△△△△△△△



(寛永元年の後印)

→ 複製色の背景がなくなる →

NIJL-NWプロジェクトでの取り組み（公開系システム）

2016年度の活動

□公開系にデジタルオブジェクト識別子（Digital Object Identifier = DOI）等の導入へ（仕様書に盛り込む）

国文研は、機関として、国際的な識別子であるDOI登録機関（RA）に認定された日本で唯一の機関ジャパンリンクセンター（JaLC）の一般会員（正会員）に入会



Report Kasama

2017.05 ISSN0914-5397

2-2-3 Sarugakuscho, Chiyoda-ku, Tokyo Metropolis 101-0064 JAPAN. Tel 03-3295-1331 Fax 03-3294-0996 Mail=info@kasamashoin.co.jp

リポート笠間 No.62

●特集1

Take
Free

<http://kasamashoin.jp/>
<http://twitter.com/kasamashoin>
<http://archive.mag2.com/0000222327/index.html>

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-2-3 笠間書院

電話 03-3295-1331 Fax 03-3294-0996

メール info@kasamashoin.co.jp

いま欲しい平家物語論とは
——自身への問いを携帯すること●松尾葦江

〈文スト〉は敵じゃない●日比嘉高

〔コラム〕文豪ゲームと作家のキャラ化
——極私的文アル体験記●山中剛史

提案三つ——文学の研究・教育の活性化に向けて●寺島恒世

日本古典文学のファンを増やすために
——文化コードの新絶のなかで●渡辺麻里子

●特集2

デジタル化で未来をどう創るか

より開かれた人文学研究に向けて
——人文学オープンデータ共同利用センター(CODH)の挑戦●北本朝展

MOOC(ムーク)コース制作体験記——日本の書物文化を世界に発信して●佐々木孝浩

「新日本古典籍総合データベース」の試験公開開始
——歴史的典籍NW事業のいまとこれから●山本和明

NIJL「蔵書印データベース」を起点に、書物・人・知のネットワーク+αへ●青田寿美

●エッセイ

漕ぎ手の一人として——『舟を編む』と私●山本康一

●学界広場

〔書評〕平野多恵 著・遠藤拓人 絵『完全解説付き 歌占カード 備づけし』(夜間飛行)●渡辺

〔面白かった、この3つ〕小山聡子／原豊二／小財陽平／桜井宏徳／宮腰直人／
佐藤温／井ノ口史／小林一彦

〔学界時評〕日本語の歴史的研究[2016.7-2016.12]●大木一夫

〔学会リポート〕佐々木勇／松本大／高桑枝実子／青山英正／水谷隆之／津田

笠間書院新刊案内・2016年末～2017年刊行の本

リポート笠間No.62

■新たな試みとしてDOIとCCライセンス

「新日本古典籍総合データベース」にはいくつかの特徴がある。そのなかで特に強調したいのは、利活用を推進し、検証可能なデータベースとする取り組みであり、一つはDOI、もう一つはクリエイティブ・コモンズ・ライセンス(CCLライセンス)の採用ということである。この二項について、ご存じない人も多いだろう。今回の画像公開にあたって最も重要なのは、検索結果の安定性ということにある。

検索結果が、数年後には見当たらないといった事態は、インターネットが盛んになった当初、よく見うけられたものだ。せっかくテキストデータ等の有益な情報を公開していても、再度確認できなければどうしようもないし、確認出来ない情報ならば、それは信用できない。古典籍などを用いた人文学研究では、他者が容易に閲覧できない典籍の資料紹介が盛んに行われてきた。近年はその写真を一部紙面にした論文も増えている。ある程度改善された状況とは言え、他者による検証や追認が出来なければ、本当にそう書かれているのかを誰が証拠立ててくれるか？誰かが翻刻してくれたから？が前提としたら、学問としては未成熟であろう。人文学は科学でなければならぬ。こう思う、こんな見方もあるという提案型の論文も勿論重要だ。しかし、その土台とな

そのうちに笠間書院のHPで
ダウンロード可能に

<http://kasamashoin.jp/index.html>

**検証可能な学問とは
なにか？**

**そのための画像公開
(結果の安定性)**

検証可能な人文学とは

ちっと具体例（近代の例で恐縮）

検証のためには全集を読まねばならないはず

何に載っているか記載なし。
『与謝野寛短歌全集』（明治書院・昭和八年）に掲載された鉄幹自ら記した年譜に記事あり。ただし、この本自体が稀覯本

某有名研究者による論文
与謝野鉄幹（晶子の夫）の
旧派歌壇への参加を示唆



鉄幹の作を「明星」以前に求めるのはひと苦労だが、更にさかのぼって処女作云々となると事はまた面倒である。「自分」が父に連れられて山階宮と三条実美公の前で歌を詠み、「山階宮の月次歌会と年一回の邦光社歌会に出席」と鉄幹は回想した。しかし、それがどんな歌

**過去の人文系学問すべて検証
（再現）の対象たり得る！**

事典や有名な研究者といえど信用するな

検証可能な人文学とは

検証のためには全集を読まねばならない

研究者は足で稼ぐしかないのか？
若い研究者はそのため苦勞している。
ウェブ社会なのにまだ同じことをするの？

近年、国会図書館で図書館向けデジタル化資料送信サービスが登場。
従来だと所蔵図書館に赴き、確認する必要があった。こうしたことが数多く存在する。

確認・父の礼蔵法師が年一回の邦光社歌会を楽しみにしていたとの回想であつたことが判明。
検証が楽に出来ていれば……
過去の研究の上に構築されている研究

鉄幹の作を「明星」以前に求めるのはひと苦勞だが、更にさかのぼって処女作云々となると事はまた面倒である。「自分が父に連れられて山階宮と二条実美公の前で歌を詠み」「山階宮の月次歌会と年一回の邦光社歌会に出席したと鉄幹は回想した。しかし、それがどんな歌

人文学は資料の「断片・引用」の上で論を構築する学問

だから、資料検証出来ない場合、論文中に「〇〇氏の研究に拠れば」…で済ましてしまう」傾向あり 砂上の楼閣化 いつまでも進まない
自明を疑う必要 ⇒ 画像は百聞は一見にしかずとなりうる

なぜ画像の公開が必要か

なにごとともWeb上で探せることが重要

書誌のWEB公開：グーグル等のサイトで検索できる書誌情報（機械判読可が理想）目録冊子そのものが、誰でもいつでもみることができない稀覯本。

画像のWEB公開：研究者の求めるもの 証拠能力

見せることが「魅せる」…世界が待っている

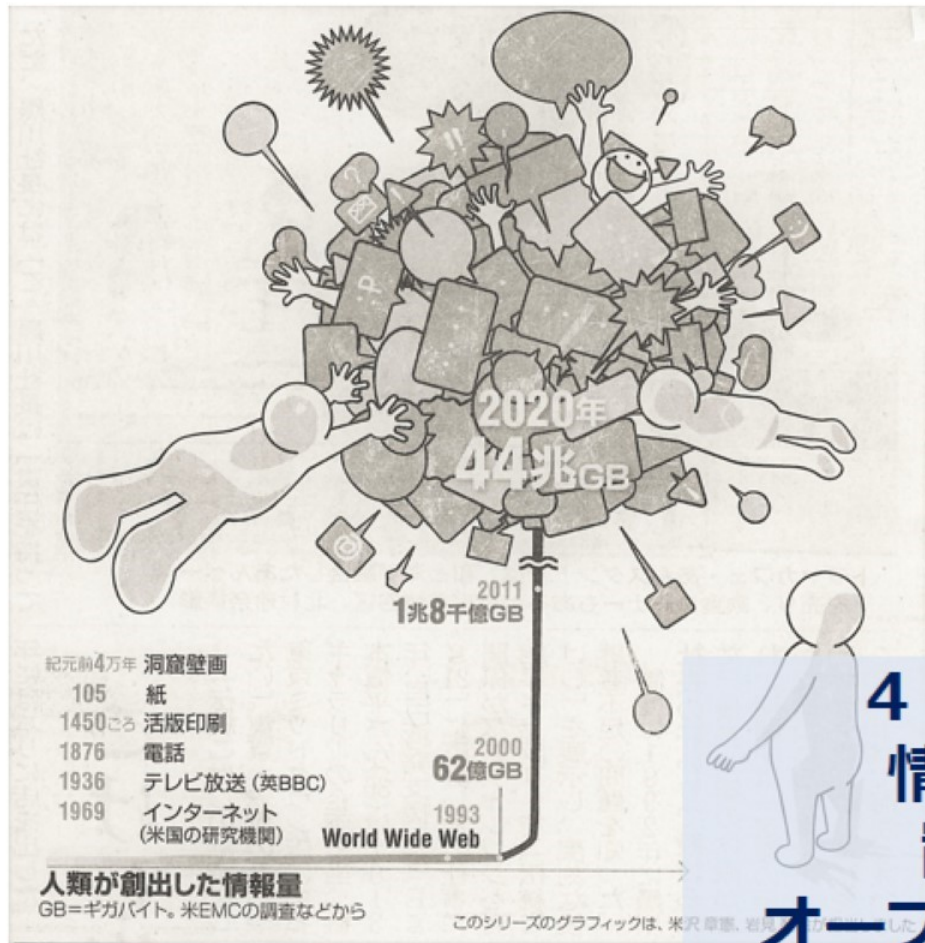
見せなければただの過去の記録の死蔵 **秘蔵は死蔵**

先学の研究を検証するためには先学と同じ経路を通らねばならないとしたら…
⇒研究は停滞するしかない

情報を探し出すことは可能か？

可能となるように仕掛けること／手を繋ぐこと

各大学・図書館での公開…どうやって世界の人を探しだせるのか？



44兆GBの
情報の海に
置かれた
オープンデータとは

2017年1月9日朝日新聞

情報の海の中で少なくとも
結果の安定性は重要 (いつみても同じ)
⇒ **DOI** の導入

デジタルオブジェクト識別子

(Digital Object Identifier = **DOI**) 導入

※検索結果の安定性をもたらすことになる。

※加えて、**論文等への記載を推奨** (資料に**DOI**)

タイトル	白縫譚. 第65編
著者	柳亭種彦, 柳水亭種清 作
出版者	柳亭種彦
出版年月日	[18--]
請求記号	WA19-6
書誌ID	
DOI	10.11501/2545205
公開範囲	インターネット公開(保護期間満了)

国会図書館の場合

論文等にDOIを引用記載する
⇒読む人は簡単に論拠となる作品画像に辿り着く。



検証可能な人文学の構築へ

何がたりないのか？

—DOIをどう普及させるか—

理系の常識は人文系の非常識！

① DOI を知らない。科研の報告に書く欄あるけれど…

13. 研究発表（平成28年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（1）件／うち査読付論文 計（0）件／うち国際共著 計（0）件／うちオープンアクセス 計（0）件

著 者 名		論 文 標 題				
山本和明		書物流通の幕末・明治				
雑 誌 名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著	
書物学	無	1	2016	56-62	—	
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）						
なし						
オープンアクセス						
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難						

言い方を換えれば、もっと分かりやすく説明を！
 ⇒だれが説明しているのか？啓蒙しているのか？
 ジャーゴン（専門用語）の氾濫

珍古楼主人『甘藷百珍』（寛政元年/西暦1789年）

（ちんころうしゅじん）（いもひやくちん）



甘藷（さつまいも）を使った123の料理が『豆腐百珍（とうふひやくちん）』にならって奇品、尋品、妙品、絶品の4つにわけて記されています。左は「琉球売藷之図」と書いてあります。いわゆる<百珍物シリーズ>とされている本のうち『豆腐百珍』、『鯛百珍料理秘密箱（たいひやくちんりょうりひみつばこ）』、『万宝料理秘密箱（まんぼうりょうりひみつばこ）』、『柚珍秘密箱（ゆうちんひみつばこ）』、『大根一式料理秘密箱（だいこんいっしきりょうりひみつばこ）』が当コレクションに含まれています。

 <https://doi.org/10.20730/100249510>

めんどくさいことないですか？

Japan Link Center (JaLC) は国際DOI機関から、国際的な識別子であるDOI登録機関 (RA) に認定された日本で唯一の機関です。電子化された学術論文、書籍、論文付随情報、研究データなどにDOIを登録し、コンテンツの所在情報 (URL) 等とともに管理しています。国内学術機関の4機関が共同で運営しています。

② どうやったらDOIが便利かの説明と、どのようにしたら使えるようになるかを。

そこを省略したら普及しない。

③ 論文にはどう書くのか、タテ書人文系のモデルを。

まだまだやることはいっぱい
NIJLの今後の展開にご期待を



ご静聴ありがとうございました